

## 研修並びに行政視察報告

(会派 誠和クラブ)

### <研修・視察目的>

#### ・群馬県渋川市

少子化対策、人口減少対策の一環と、子育て世代の経済的負担を軽減するため学校給食の無償化の取り組みを研究し、参考にするため。

#### ・東京都八王子市

日本遺産「出雲国たたら風土記」をより活用して観光振興につなげるため、様々な取り組みをしておられる八王子市を視察し、調査・研究し、参考にするため。

### <視察概要一覧>

研修・視察 月日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
8月3日 (水)	群馬県渋川市	渋川市役所 第2庁舎	・学校給食完全無料化について
8月4日 (木)	東京都八王子市	日本遺産センター 八王子博物館	・日本遺産の活用と発信について

### <研修・視察概要報告>

#### 1. 群馬県渋川市

●説明者： 渋川市教育委員会 教育部 教育総務課長ほか職員2名

●説明概要：

#### ・「学校給食完全無料化について」

##### <概要>

1. 目的：子育て世代の経済的負担を軽減することにより、子育て支援の充実を図り、切れ目のない総合的な少子化対策及び人口減少対策を推進するもの。
2. 経緯：平成28年4月から渋川市立小中学校に通う児童生徒の学校給食費の約30%を公費負担とし、さらに第3子以降の給食費全額公費負担を開始した。そして平成29年4月から、さらに子育て支援の充実を進め若い世代が定住できるよう、総合的な財源の調整を図った中で全額公費負担とした。
3. 無償化に要する予算額（令和4年度）：2億6,499万円  
対象となる小中学校の見込み人数：小学生3,207人、中学生1,697人の合計4,904人
4. 課題：恒久的な財源確保

## <考 察>

### ○石倉 刻夷

少子化と人口減少対策の創生総合戦略の一つとしてスタートし、平成29年4月から全額公費負担の経緯があった。令和4年度の児童・生徒数は4,798人、予算額は2億6千万円余「子ども育てるなら渋川市、教育を受けるなら渋川市」がキャッチフレーズとなっていた。

群馬県内では、12市の内、3市が無料化、7町3村に広がっている状況である。主導したのは市長で、改選後も市長の主導で、アレルギー対応の給食センターを令和2年8月に新築する等、前向きな取り組みが見られた。一方で、課題は恒久的な財源の確保が必要であり、地産地消率の向上等、ご心労も伺えた。

### ○三島 静夫

渋川市では全国の自治体に先駆け、子育て・教育の充実と若い世代の定住化を目指しトップダウンでの学校給食完全無料化へ段階的に政策を実施された。

事業開始の平成29年度以降、その影響で群馬県内の12市町村が給食費の完全無料化へ進まれ、またそれ以外の自治体においても給食費の公費負担割合が大きくなっており、群馬県全体で保護者の給食費大幅負担軽減となっている。

このことから、学校給食完全無料化政策による定住化という点からは、隣接の市町村からの人口流入は難しいと考えられるが、都心部からの流入、また、長期的視点で生まれ育った子どもたちが再び地元で定住する要因になると感じた。

給食完全無料化により給食の質の低下を保護者に疑問視されるのではとの問いに、担当者から



3か所ある給食センターではそれぞれの栄養士が連携をとりプロ意識を前面に出してしっかりとした献立を立てている。献立に関しては毎食同日にホームページに写真を添付して掲載しているとの回答を頂いた。また、この取り組みにより家庭での食育、親子のコミュニケーションに繋がっているとのことであった。本市においても給食完全無料化については財源調整をして目指していきたいとである。

### ○作野 幸憲

切れ目のない総合的な少子化対策及び人口減少対策を推進する施策として、平成29年4月より給食の無料化を開始され、また令和元年10月より保育料の無償化を実施されたが、人口及び年少人口とも、減少が続いているとのこと。その要因は、隣接する吉

岡町の人口増による要因が大きく、同町は交通の利便性が良く、大型商業施設の進出によって子育て世代の移住が増加したこと。よって渋川市の人口減少対策としての給食の無料化は思ったほどの効果は出ていないが、保護者からは経済的に助かるという声が多く聞かれ、子育て世代の経済的負担軽減と、教育現場での給食費徴収業務の軽減に大きな成果が出ていた。

## 2. 東京都八王子市

●説明者： 八王子市教育委員会 生涯学習スポーツ部長ほか 職員3名

●説明概要：

・「日本遺産の活用と発信について」

〈概要〉

2020年6月に八王子市が文化庁に申請したストーリーである「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が、東京都初の日本遺産に認定され、昨年6月には「桑都日本遺産センター 八王子博物館」をオープンし、桑都と呼ばれる八王子の魅力を発信し、日本遺産のストーリーと、原始・古代から未来へとつづく八王子の歴史文化を紹介しておられます。事業については、日本遺産「桑都物語」推進協議会で行われ、文化庁の補助事業（人材育成・普及啓発・調査研究・活用整備・情報コンテンツ作成）を中心に、工夫を凝らした取り組みをしておられる。

〈考 察〉

○石倉 刻夷

令和2年6月に、88番目で日本遺産認定（現在104箇所）冠に、霊気満山人々の祈りが紡ぐ桑都物語＝日本遺産として伝統文化の伝承、郷土学習への取り組みがなされている。

第1回の日本遺産サミットは、平成28年に開催され、第8回を八王子市で開催し、市民意識のさらなる向上を期待すると発言されていました。東京都では、唯一の日本遺産、年間300万人が登山する高尾山と連動しての活動が、人口減少化にある安来市、雲南市、奥出雲町の「出雲國たたら風土記・・・。」日本遺産の活用がいかにあるべきか思料するところです。

○三島 静夫

日本遺産をいかに活用するかという課題に八王子市ではまず市民から、市民がつくるストーリーが大切であるという考えのもと、行政、企業、関係機関、各種団体が連携して事業を推進されている。東京都という日本の首都において唯一日本遺産がある八王子市はその存在を最大限に活用し、まちづくりに反映させようとして積極的に取り組んでおられる姿を拝見した。

また、対外的な発信の一つとして日本遺産サミットへの参加、開催への取り組みなど他自治体との交流にも積極的に取り組んでおられた。

さらに、八王子市には大学が21校もあり、産官学で日本遺産博物館を展開しており特に

狭い空間でのデジタル技術を活用した効果的な展示には目を見張るものがあった。

安来市においても市民を巻き込み日本遺産を有効に活用して、まちづくりに取り組む施策をもっと積極的におこなう必要があると強く感じた。



#### ○作野 幸憲

令和3年6月にオープンした「桑都日本遺産センター 八王子博物館（愛称はちはく）」の館内は、八王子の歴史を象徴する18のイラストが彩り、さまざまな資料や最新の映像コンテンツ（P+MM）などがあり、子どもから高齢者まで非常にわかりやすく、そして興味をそそられる展示様式に

なっていました。特に3次元地形シュミレーターP+MMは、従来のジオラマなどとは違い、地形や構造物の再現性に優れ、コンテンツを自由に変更できるなど更新性に優れているので、和鋼博物館や歴史資料館の展示の充実には欠かせないコンテンツになると思った。

以上